

immediate release for project N March 2006

□ □

2006年度 ラインナップ決定のお知らせ

project N 25-28

artists : 25…ヒラタシノ
 26…山川勝彦 (やまかわ・かつひこ)
 27…山内崇嗣 (やまうち・たかし)
 28…富倉崇嗣 (とみくら・たかし)

謹啓 このたび、2006年度 "project N" の作家4名が上記のとおり決定いたしましたので、お知らせいたします。
 "project N" は、当館コレクションの中心作家である故 難波田龍起氏の遺志を受け継ぎ、若手作家の育成・支援を目的として1999年12月から開始した企画です。これまでにご紹介して参りました下記24名の作家は、皆さまのお力添えをいただき、ますます活躍の場を広げています。

1999年度：01 南川史門／02 荻野僚介
 2000年度：03 今野尚行／04 SASAKI／05 蛭名優子
 2001年度：06 高橋信行／07 北浦信一郎／08 今澤 正／09 田中栄子
 2002年度：10 英 裕／11 大塚泰子／12 小木曾瑞枝
 2003年度：13 西澤千晴／14 井上実／15 牧谷光恵／16 中山美央子
 2004年度：17 東亭 順／18 高橋将貴／19 小西真奈／20 馬場 恵
 2005年度：21 中岡真珠美／22 高木紗恵子／23 森本太郎／24 小林浩

つきましては何卒この機会に、"project N" ならびに各展の周知・告知活動にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、各作家についてのより詳しい情報については、お気軽にご連絡下さい。

謹白

〔開催概要〕

会 期=□□	project N 25 ヒラタシノ□	4月9日[日]⇒6月18日[日]
□ □	□ □ □ □	企画展「武満徹—Visions in Time」
□ □	project N 26 山川勝彦□	7月8日[土]⇒9月18日[月・祝]
□ □	□ □ □ □	企画展「光の魔術師：インゴ・マウラー展」／収蔵品展022
□ □	project N 27 山内崇嗣□	10月7日[土]⇒12月24日[日]
□ □	□ □ □ □	企画展「伊東豊雄展」(仮称)／収蔵品展023
□ □	project N 28 富倉崇嗣□	2007年1月14日[土]⇒3月25日[日]
□ □	□ □ □ □	企画展「土から生まれるもの」(仮称)

会 場= 東京オペラシティアートギャラリー 4Fコリドール
 主 催= 財団法人東京オペラシティ文化財団
 開館時間= 11:00⇒19:00 (金・土は20:00まで。入館は閉館の30分前まで)
 休館日= 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日、5月1日は開館)／全館休館日 (8月6日、2007年2月11日)
 入場料= アートギャラリー入場料に含まれます。

◎ 貴誌にご掲載いただく場合の[問合せ先] = TEL: 03-5353-0756

◎ project N に関するお問合せ：

東京オペラシティアートギャラリー 吉田 (広報)
 TEL: 03-5353-0447 FAX: 03-5353-0776
 Email: ag-press@toccf.com

ARTGALLERY
 TOKYO OPERA CITY

● project N 25-28 アーティスト紹介

● 25 ヒラタシノ HIRATA Shino (1974 年生まれ／東京都在住)

ヒラタシノは、建物の仮囲いや自動車のボディにポップでカラフルな抽象画を描く一方で、キャンバスの作品も制作している。輪郭のはっきりしたウォールペインティングとは対照的に、全体が色面で埋め尽くされるキャンバス作品には、しばしば植物を連想させる緑色系の形象、あるいは気泡や細胞を想起させる円形の形象が認められる。抑制された色彩や絵具の滲みや垂れは、描かれたイメージの直裁性を弱め、薄いベールのような皮膜に包まれた有機的な形象は、不思議な生命感を感じさせる。本展では、最新作を含むキャンバス作品に、一部ウォールペインティングを加えて展示を行う予定。

© 1999 年より活動開始、カフェバーなどで個展。02/03 年 GALLERY ART GUILD (東京)、04 年 Pepper's Gallery (東京) などのグループ展などに参加。03/04/05 年のラフォーレ原宿 (東京) をはじめ、六本木ヒルズ、ルミネ新宿など壁画制作多数。05 年ボルボペイントカーアワードでグランプリ受賞、シェル美術賞展 2005 で入選。

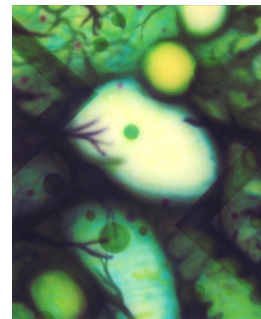


《無題 S20 2005.12》
アクリル絵具, キャンバス
72.7 x 72.7 cm / 2005

● 26 山川勝彦 YAMAKAWA Katsuhiko (1967 年生まれ／東京都在住)

山川の作品群に一貫するテーマは「光」である。梢の間から漏れる、太陽の思いがけず強い光に目がくらむ瞬間のように、画面上のイメージは輪郭線を失い光の中に溶けていく。「人間が生きていく上でかけがえのないもの」ながら、それが照らし出す種々多様なものに目を奪われ、存在を意識されることが少ない光。山川は、光それ自体を描こうとしている。焦点の合わない写真を思わせるアクリル絵具のフラットな画面には、おだやかな光の円がゆらめく。具体的なモチーフが一切見あたらず、抽象作品といえるような画面にもかかわらず、そこに紛れもない光の実体を認識させる作品である。

© 1991/93/95/98 年 G アートギャラリー (東京)、99 年ギャラリー山口 (東京) (01 年以降毎年) で個展開催。グループ展では 94 年「現代日本美術展」(東京 / 京都 / 茨城)、「トーキョーワンダーウォールの作家たち」東京都現代美術館 (東京) に参加。



《05-G-9 ららら》
アクリル絵具, キャンバス
162.0 x 130.3 cm / 2005

● 27 山内崇嗣 YAMAUCHI Takashi (1975 年生まれ／東京都在住)

「あるものを使って、無いものを作りたい」というコンセプトのもと、さまざまなパフォーマンスやイベントの企画でも話題を振りまいてきた山内は、布地の模様の上に同じ模様を拡大して描くトートロジック (同義反復語的) な作品のシリーズを経て、近年はランダムなイメージからなる静物画や風景画などで新たな方向性を切り開いている。たとえば異質な色面によって部分的に覆われた画面や、執拗なまでの「部分」の凝視は、あたかも CG 画像の異次元のコラージュのようであり、奇妙なズレや違和感とともに見る者の想像力を拡張する。オーソドックスな絵画の手法で対象への果敢なアプローチを試みること、それは山内が多くの発見をしながら世界とのかかわりを探ってゆく行為そのものである。

© 1998 年「昭和シェル現代美術賞展」(東京) で入選。個展は 2000 年伊藤忠ギャラリー (東京) など。98/99/00 年「灰塚アースワークス」(広島)、01 年「セゾンアートプログラム東京 2001」、東京、「What's the difference between...」クンストビュロ (ウィーン) などのグループ展に出品。



《727 mm x 500 mm》
油彩, キャンバス
72.7 x 50.0 cm / 2005

● 28 富倉崇嗣 TOMIKURA Takashi (1979 年生まれ／三重県在住)

富倉の絵画は、脈絡のないイメージの断片と、それを生み出し同時に遮蔽する色面が特徴的である。動きや速度といった時間までも併置する画面は流動的で、それが富倉の作品に頓挫した連想ゲームのような宙吊り感を与える。イメージの断片はムラのあるベタ塗りの色面に全体像を遮蔽され、画面の中心性を欠き、見る者の視点を分散させる。それによって富倉の絵画は、作品に求められる一つの「結論」、つまり形体のうえでも意味性のうえでも、何かを表象することから逃れ得ている。誰が見ても同じ解答に到達することのないイメージの非決定性をあえて指向した絵画といえるだろう。

© 2003 年 / 04/05 年 O ギャラリー eyes (大阪)、03 年 O ギャラリー UP・S (東京) にて個展を開催。01 年「絵画の流れ展」三重県立美術館、02 年「神戸アートアニュアル 2002—ミルフィーユ」神戸アートビレッジセンター、03 年「ARTISTS BY ARTISTS」六本木ヒルズ森タワー (東京) などのグループ展に参加。



《予知夢》
アクリル絵具, 綿布
72.7 x 90.9 cm / 2004
courtesy: O Gallery eyes

● project N 27 山内崇嗣

project N 27 山内崇嗣・10月7日[土]⇒12月24日[日]

企画展「伊東豊雄展」(仮称)／収蔵品展023

らしい

イメージの見え方や起源を問いただすと、騙し絵のアヒルウサギのように見えているものが一つであるにも関わらず、幾つかのイメージをはらんでいることに良く気づかされます。

今回の展示にあたり、そのようなことを考えながら、狛犬らしい洋館装飾、惑星らしい砂、羊らしい枝などをモデルにした絵画を展示するらしいです。(山内崇嗣)



羊らしい枝
オニグルミの葉痕と冬芽



《727 x 727 mm 2004/11/21》
油彩、キャンバス
72.7 x 72.7 cm 2004

経歴

1975 石川県金沢市生まれ

1998 武蔵野美術大学油絵学科卒業

展覧会

2000 山内崇嗣展 / 伊藤忠ギャラリー(現: エムアンドアイアートシステム株式会社) / 東京
灰塚アースワークス / 総領町 / 広島2001 山内崇嗣・絵画展 / メゾンリベラル 103 / 東京
SAP`ART-ING TOKYO 2001 / SAIZON ART PRPGRAM / 東京
What's the difference between..... / クンストビューロ / ウィーン2002 山内崇嗣展 / galleryPAX / 東京
omolo.com/expo / switch point / 東京

2004 ノストラダムスは生きていた! ～地球はすでに滅亡している～ 展 / uplink gallery / 東京



《727 x 727 mm 2005/09/27》
油彩、キャンバス
72.7 x 72.7 cm 2005

参考文献

NHK BS「真夜中の王国」(3/23/1999)

NHK BS「ウィークエンドジョイ」(3/26/1999)

JAMA<日本語版>/ 共同編集毎日新聞社・日本医師会

「The Cover この布地は、この布地ではありません。(中村麗)」

(8/2000:Coverpage, P. 52)

美術手帳 / 美術出版社 vol. 52 no. 725 「Exhibition Review GALLERY/ 新見隆」

(11/2000:P. 168)

てんひょう / アートヴィレージ no. 5 「山内崇嗣 / 深瀬鋭一郎」(2000 P. 153)

Quick Japan/ 大田出版「パイ投げしませんか? : 平田順子」(2001, no. 37 P. 10)

prints21/prints21 「『崇』と『崇』」(2001 winter P. 110)

美術手帳 / 美術出版社 vol. 53 no. 813 (12/2001:P. 166)

saison art program journal (2001 no. 7 : p. 163)

フジテレビ「テレビ美術館」(6/6/2004)



《727 x 606 mm 2006/06/30》
油彩、キャンバス
72.7 x 60.6 cm 2006

ホームページ

<http://omolo.com> info@omolo.com

備考

同時期に東京 / 広尾にあるクウイカフェ (<http://kukuicafe.jp>) にて展覧会も開催予定です。

展覧会に伴い観覧会などワークショップも企画予定。

詳しくは <http://omolo.com/news> にて※ CDR に、この書類の PDF データと
画像データを同封しています。